日本美術史講義７ｂ

2021年秋学期　火曜4限

担当：伊藤　大輔

第7回

【注意】

このパワーポイントスライドは、本講義の**受講者専用**です。

許可無く、複製・公開すること、あるいは知り合いや友人へ転送することは**禁じます**。個人の学習のみに使用して下さい。

違反しますと、**作品の所有者、写真の撮影者、写真の出版元**等の**権利者**とトラブルになる可能性があります。

トラブルを避け、自分の身を守るという観点から、制限にご協力下さい。

はじめに

今回は、前回からの続きで、法隆寺金堂壁画の特色をさらに学びます。

①法隆寺金堂壁画（続き）

（１）同一下図利用の問題

前回述べたように、法隆寺金堂壁画では、下図を転写して作品を仕上げているが、その際、同一下図を利用していたことが、知られている。

①大壁では、１・9・10の各壁は基本部分を同一下図で描いている。

この3面は、**無背景**で、超越的な世界にいる仏を描いている。

それに対し、6号壁では、**背景に山水**が画かれ、現実世界に来迎した阿弥陀を描いている点に違いがある。

そのことを示すように、6号壁のみ、天蓋の飾りが風に揺れている。

①法隆寺金堂壁画（続き）

1号壁

9号壁

10号壁

無背景で、想念の世界にいる、超越的な仏を描く

天蓋の房飾りに動きはない

六大寺大観　法隆寺５建築・工芸・絵画（岩波書店）
奈良六大寺大観刊行会、2001

①法隆寺金堂壁画（続き）

6号壁

山岳が描かれる

天蓋の房飾が揺れている

6号壁では、現実世界に来迎した阿弥陀を描いている。

六大寺大観　法隆寺５建築・工芸・絵画（岩波書店）
奈良六大寺大観刊行会、2001

①法隆寺金堂壁画（続き）

②小壁では、3号壁と4号壁の
観音・勢至は、同一下図を
反転して用いている。

3号壁・観音

4号壁・勢至

六大寺大観　法隆寺５建築・工芸・絵画（岩波書店）奈良六大寺大観刊行会、2001

①法隆寺金堂壁画（続き）

③4号壁の勢至と6号壁の中の
脇侍である観音も同一下図と
される。

4号壁・勢至

6号壁・脇侍観音

六大寺大観　法隆寺５建築・工芸・絵画（岩波書店）奈良六大寺大観刊行会、2001

①法隆寺金堂壁画（続き）

④4号壁の勢至と7号壁の聖観音も同一下図とされる。

4号壁・勢至

7号壁・聖観音

六大寺大観　法隆寺５建築・工芸・絵画（岩波書店）奈良六大寺大観刊行会、2001

①法隆寺金堂壁画（続き）

⑤2号壁と5号壁の半跏思惟像は、同一下図を反転して使用している。

5号壁・半跏思惟像

2号壁・半跏思惟像

六大寺大観　法隆寺５建築・工芸・絵画（岩波書店）奈良六大寺大観刊行会、2001

①法隆寺金堂壁画（続き）

同一下図の利用状況から、金堂壁画制作の際には、少ない基本図様を用いつつ、細部を変更しながら、図様のヴァリエーションを生みだしていたことが分かる。

当時利用できた情報が少なかったことが推測できる。

①法隆寺金堂壁画（続き）

（２）中国との比較

①1号壁・釈迦浄土図

隋代の敦煌420窟、298窟と類比できる。

敦煌では、この頃、釈迦浄土図（釈迦と十大弟子）の定形が出来上がったとされる。

①法隆寺金堂壁画（続き）

1号壁・釈迦浄土図

敦煌298窟（隋）釈迦浄土図

敦煌420窟（隋）釈迦浄土図

中国石窟敦煌莫高窟1~5（平凡社）
敦煌文物研究所、1992

①法隆寺金堂壁画（続き）

②9号壁・10号壁に見える金剛力士像は、初唐の敦煌57窟・阿弥陀浄土図にも現れる。

①法隆寺金堂壁画（続き）

敦煌57窟（初唐）阿弥陀浄土図

10号壁・薬師浄土図

両図ともに、左右下隅に金剛力士像が見られる

中国石窟敦煌莫高窟1~5（平凡社）
敦煌文物研究所、1992

六大寺大観　法隆寺５建築・工芸・絵画（岩波書店）
奈良六大寺大観刊行会、2001

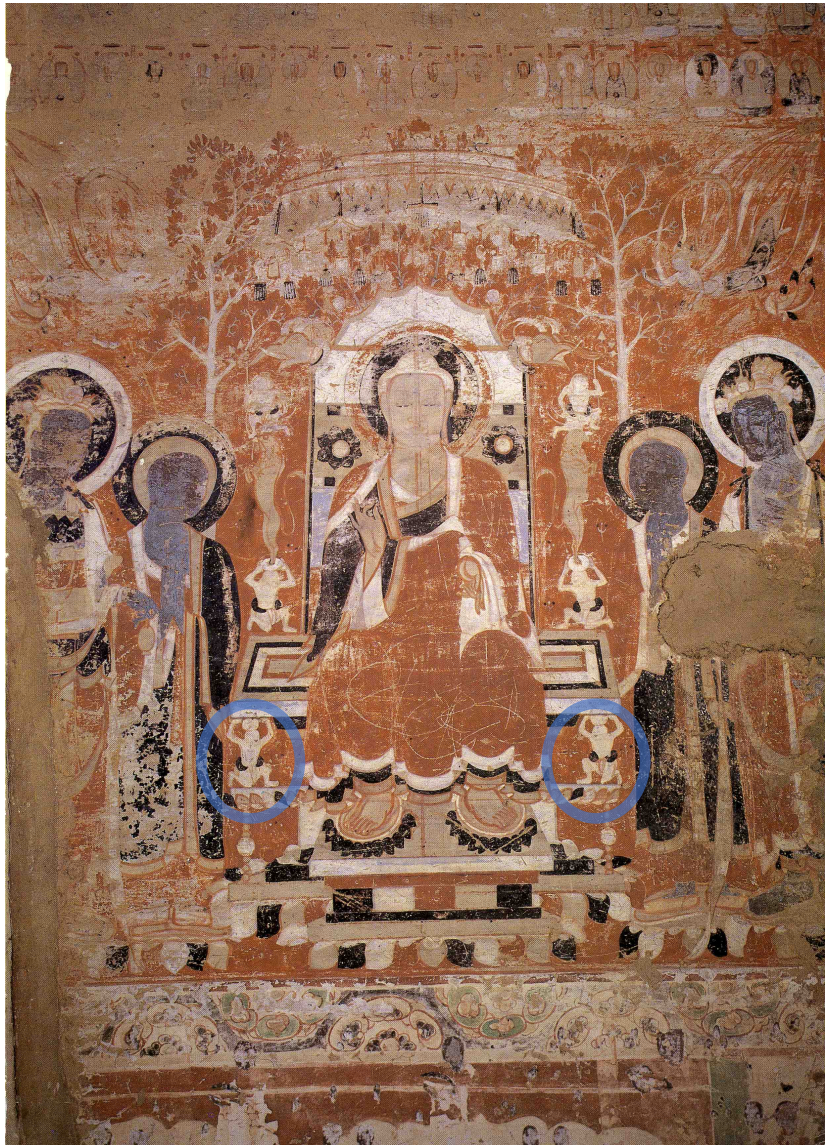
①法隆寺金堂壁画（続き）

③9号壁・弥勒浄土図で侏儒が仏の台座を支えるデザインは、敦煌405窟（隋代）に見られる。

①法隆寺金堂壁画（続き）

9号壁・弥勒浄土図

六大寺大観　法隆寺５建築・工芸・絵画
（岩波書店）
奈良六大寺大観刊行会、2001



敦煌405窟（隋）仏説法図

小さい人間が仏の玉座を支えるデザイン

中国石窟敦煌莫高窟1~5（平凡社）
敦煌文物研究所、1992

①法隆寺金堂壁画（続き）

④6号壁・阿弥陀浄土図は、初唐の敦煌57窟・阿弥陀浄土図や同じく初唐の敦煌332窟・阿弥陀三尊五十菩薩図と類似する。

①法隆寺金堂壁画（続き）

6号壁・阿弥陀浄土図

敦煌57窟（初唐）阿弥陀浄土図

57窟の壁画は、敦煌の中でも最も美しい壁画として知られる。

6号壁は、57窟の充実した表現を継承している。

六大寺大観　法隆寺５建築・工芸・絵画 （岩波書店）
奈良六大寺大観刊行会、2001

中国石窟敦煌莫高窟1~5（平凡社）
敦煌文物研究所、1992

①法隆寺金堂壁画（続き）

6号壁・阿弥陀浄土図

敦煌332窟（初唐）阿弥陀三尊五十菩薩図

332窟の壁画には、6号壁と同じく、阿弥陀の背景に山水が描かれる。

六大寺大観　法隆寺５建築・工芸・絵画 （岩波書店）
奈良六大寺大観刊行会、2001

中国石窟敦煌莫高窟1~5（平凡社）
敦煌文物研究所、1992

①法隆寺金堂壁画（続き）

【結論】

敦煌壁画との比較から、法隆寺金堂壁画は、7世紀初頭から半ばにかけての敦煌壁画の動向を反映していると言える。

中国の最新の動向が伝わる時間差を考慮すると、天智九年（670）に炎上した金堂の再建事業が進んだ、7世紀末から8世紀初頭にかかるころに、金堂壁画は制作されたと推定するのが妥当と考えられる。

今回の講義はここまでです。
次回は、新しい単元として高松塚古墳壁画を学びます。